

2005年 10月 第29号 By FP Compass

1. 日経平均株価およびTOPIXが続伸

東京証券取引所では連日30億株以上の取引があり、活況を呈してきました。

東京証券取引所では約400銘柄の株が年初来最高値を付けています。

最近の傾向として、大型株（上場株式数2億株以上）の上昇値動きが大きくなってきました。それとは逆に、小型株の多い東証マザーズ指数は年初来の安値を付け、投資家の動きは大型株へのシフトが鮮明となりました。

衆議院選挙では自民党の圧勝に終わり、懸念された政治不安リスクが払拭され、外国人投資家も交え買い圧力が強くなってきました。

それに伴い、株式投資信託、変額年金商品、変額保険の運用実績が良くなってきています。

特に月払いや規則的増額にてコツコツと買い足しているタイプは、上昇のタイミングを逸することなく、安定的に運用できていました。

当社によるマネーセミナーにて、「複利の効用」（長期投資）と「アセットアロケーション」（資産分配）と「ドルコスト平均法」（投資タイミングの分散化）を必ずと言って良いほど説明をしてきました。

投資のタイミングで収益を図る事は専門家でも困難であり、タイミングを逃すことも良くあることです。また、人間の感情が逆目に出ることも日常茶飯事です。

しかし、資産をひとつのものに偏らせずに、さまざまな資産クラスに分散化をし、毎月決まった日に機械的に一定金額にて購入することにより、感情に流されることなく、平均購入単価を下げる効果が得られます。

そして、長期間投資していることにより、今回のような上昇局面のタイミングを逸することなく、恩恵を享受できることにも繋がります。

金利は上昇せず、株価が上昇している今、あなたの資産運用は…

2. ますます、強大、強烈になる熱帯性低気圧

日本や東アジア地域では「台風」、北米地域では「ハリケーン」と呼ばれる熱帯性低気圧。

アメリカの南部ニューオーリンズ州を中心に壊滅的な打撃を与え、いまだにその爪痕を大きく遺しているハリケーン「カトリーナ」、そして、追い打ちをかけるように襲来した「リタ」も新たな被害をもたらしました。

今回は「カトリーナ」での教訓が生かされ、事前に住民非難ができた結果、直接の犠牲者は、1,000人を超した前回に比べ一桁台にとどまったようです。

行政の迅速な決断と対応、そして住民の意識の持ち方で犠牲者の数の違いに、これほど大きな差が出るとは。常日頃、想定されるリスクを意識することは大変重要です。

また、日本においても台風14号が猛威を振るい、死者・行方不明者が27名、負傷者は149名、建物被害がなんと20,220棟と大きな損害となりました。

世界最大の再保険会社であるドイツのミュンヘン再保険は、米国のハリケーン被害に伴う保険金の支払額が、保険業界全体で最大600億ドル（約6兆6000億円）にのぼるという見通しを発表しました。

同社の自然災害リスクの担当者は「ハリケーンの襲来が過去最多となる可能性が高い」として、昨年の300億ドルの2倍に達する保険金の支払いに達する可能性を指摘しました。

保険金支払いだけの金額で600億ドルと言うことは、保険の未加入や支払い対象外の契約を含めると、その損失総額は、天文学的な数字になることが予想されます。

台風14号による保険金の支払い見込みは約588億円とされています。

台風による損害は風水害、高潮や土砂崩れによる建物損害や車両の損害となります。

建物の火災保険は、水害発生時に支払い方法が契約内容によって、かなり開きがありますので良く確認をして下さい。

地球温暖化に伴う海水温上昇が、巨大な熱帯性低気圧を発生させると気象の専門家は言っています。今後も過去に例が無いような巨大かつ強烈な熱帯性低気圧が数多く発生することに警鐘を鳴らしています。

昨年公開された映画「ディアフタートゥモロー」では、地球温暖化の影響で南極の棚氷が割れ、海に流れ出すシーンから始まりました。

その巨大な氷の為に海水温度が急激に下がり、世界各地に異常気象を発生させ、その後地球的規模の大嵐が地球を襲う。その大嵐が地球高層圏の超低温を地表にもたらし、やがて地球は氷河期になる。それに伴い北米においてメキシコ以北では住む事ができない気象状況となり、アメリカ人はメキシコや他の温暖地域に避難するというストーリーです。

その中で、アメリカ大統領役の演説に「アメリカはいままで化石燃料を使いすぎたことを反省している…」。現在の大統領にも聞かせてあげたいフレーズでした。

映画のような異常気象になるかはわかりませんが、地球温暖化は確実に気象を変化させ、いままで経験したことのない、想定外の災害をもたらすことでしょう。

それには、災害に強い建物の強化、避難に関する前準備をするとともに、火災保険やその他の関係する保険等をしっかりした内容にすることが大事となります。

3. 投資入門講座

今回は「投資」と「投機」と「預貯金」の違いを説明いたしました。

今回は「リスク」と「リターン」を説明したいと思います。

一般的に、リスクというと「損失発生の可能性」として危険なイメージがあり、なんとしても避けたいと考えられている人が多くいます。

リスクは一方的に損失に向かうものと誤った考え方になりやすいということです。

はたしてリスクとは悪いものなのでしょうか？

私たちの生活の中ではさまざまなリスクにさらされています。

例えば旅行に行くときは、交通事故などに巻き込まれるなど日常生活に比べはるかに多いリスクに囲まれます。しかし、それらのリスクに勝る体験や精神的満足感、充実感というリターンが得られますので、旅行に出かけるのだと思います。

仕事の世界では、収益を得ることを考えれば必ずリスクは付いてきます。

リスクを取るからこそリターン（収益）が得られます。

リスクを取ることがイヤなら仕事を辞めれば良いことです。

大きなリターンを望む人は大きなリスクを取り、小さなリターンを望む人は小さなリスクを取るようになります。

資産運用の世界でのリスクとは「予測できないこと、不確実なこと」と言われています。

予測した結果に対し大きくぶれたとき「リスクが大きい」、小さくぶれたときは「リスクが小さい」と言います。

資産運用の世界でもリスク・リターンの相関関係はほぼ正比例となります。

ノーリスク・ハイリターンは基本的にあり得ません。

資産運用におけるリスクはある程度軽減することができます。

①資産の分散化（アセットアロケーション）

②投資時期の分散化（ドルコスト平均法）

③長期投資

をすることによりリスクを軽減でき、安定した収益を得ようになります。

ここで、元本保証商品（預金・貯金・定額年金保険等）は、はたしてリスクが無いといえるでしょうか。これを検証してみたいと思います。

お金の価値は常に変動しています。その理由として、その対価にある商品や、サービスの価格が日々変動しているからです。

要するにお金の価値は相対的な価値なので、絶対的価値ではありません。35年前になりますが、はがきの値段は5円でした。現在は50円です。

いささか荒っぽいやり方ですが、平均物価指数が10倍に上がったと仮定すれば、相対的にお金の価値が10分の1に下がったといえます。

元本保証商品の定期預金で35年間という時間を使っても、資産価値を10倍にすることはできませんでした。

元本は保証されているが、お金の相対的価値は目減りしている状況です。

元本保証＝ノーリスクとはいえません。むしろ物価上昇、つまりインフレーション時の資産目減りのリスクにさらされています。

よって、広い観点から言えばノーリスクの金融商品はこの世界にありませんので、そこを理解しつつ、資産運用を行う必要があります。

最後に、リスクという語源には「勇気を持って試みる」「冒険」という意味もあります。

4. 白内障手術体験記

先月、私の母親が白内障の手術を行いました。

手術は市内の眼科医院にて行われました。

手術の前に家族とともに白内障という病気の説明と手術の進め方を、医師の説明とビデオにて見せられました。それによりますと、白内障は70代にもなるとほとんどの方が罹患するとの事でした。眼球の水晶体が白濁して視力が劇的に落ちます。

最終的には、手術しないと快復はできないそうです。

そこで、母親は手術を決行しました。現在の白内障手術は入院の必要性が無く、日帰りで

片目ずつ行うことができます。

また、手術そのものの時間はわずか数分で完了し、あっという間に終わりました。

当日は、最終検査や瞳孔を開くための点眼薬投与のために、朝8時に病院に行き、昼過ぎに手術をして、その後点滴をしながら術後の様子をうかがい、夕方自宅へ帰ってきました。

自宅に帰ってからの母親は、片目だけの手術にもかかわらず、手術前まで、もやがかかって見えていたのが、はっきりと見えることができて大感激をしていました。

そして、一週間後にもう片方の目を同様に手術をしました。

医学の進歩をまざまざと見せつけられました。

私の母親は10年ほど前にソニー生命保険の医療保険に加入しました。

その時は、終身保障タイプはありませんでしたので、80歳満期の総合医療保険に加入したのです。今回、手術給付金を請求してその保険から手術給付金を頂きました。

白内障の手術給付金は入院日額の20倍でかつ、1週間にまたがり2回の手術を行ったために、2回分頂きました。もちろん母親は大喜びです。

5. アイエヌジー生命保険のコンファレンスに参加

9月13日に東京都品川で行われたSMMSのコンファレンスに参加してきました。

品川は久しぶりでしたが、前に行ったときの印象とは全く変わっていました。

今回のメインセミナーは「マインドマップ・ノート術」の著書で有名なウィリアム・リード氏が努めました。その後の懇親会では全国の前向きで優秀な代理店さんとの交流があり大変充実した1日でした。また翌日は、浦嶋氏の日本アルマックにてコンファレンスに参加し、貴重な意見交換をしてきました。

6. 45才までのマネー&保険講座再開

今年6月まで開催していました講座を下記の要項にて再開しました。

皆様のご参加を歓迎いたします。前回受講された方も大歓迎です。受講料は無料です。

日 時 平成17年11月26日(土) 午後2時～4時
(午後1時40分受付開始)

場 所 山形ビッグウイング4階会議室(402号室を予定しています)

対象年齢 18才～45才位まで、男女の別は問いません。

お申し込みは下記の連絡先で深瀬まで。受講票を送らせていただきます。

20名限定となります、お早めに。

発行者 有限会社 F P コンパス

武田幸夫 スタッフ：木村正照、阿部信、高橋治子、深瀬幸子、多田恵子

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.newweb.ne.jp